

令和2(2020)年度学校と地域の連携推進セミナー②実施報告

実施日：令和2年10月1日（木）

○ 事例発表

「学校と地域がつながる取組～このようなことができる～」

市貝町立市貝小学校 教諭 野澤 智光 氏

大田原市立薄葉小学校 地域コーディネーター 石塚 堯 氏

大田原市立石上小学校 地域コーディネーター 長嶋 政光 氏

第2回の研修では、学校の立場と地域の立場から2つの事例発表を行いました。

野澤先生からは、地域連携教員としての取組を中心にお話いただきました。地域学校協働活動を効果的に進めるための教職員へのアンケートや、地域コーディネーターへのヒアリングから課題を把握し、実践につなげるための事例について紹介がありました。また、教職員の当事者意識を高め、連携への理解促進を図るための取組として校内研修、連携だよりの発行などを行っていることについても伺うことができました。

石塚様・長嶋様からは、地域で行われている行事と学校をつなげ、地域が活性化した事例を紹介していただきました。小中一貫校の良さを生かし、2小1中に関わる多くの方々の協力を得ながら、幅広い世代の交流に成功した事例を伺うことができました。さらに、ボランティアの方々がやりがいをもって活動している様子などをたくさんの画像とともに紹介していただき、受講者はそれぞれの実践の参考になりました。

2つの事例発表には、共通して「複数名による連携推進体制づくり」が挙げられていました。教員もコーディネーターも一人ではなく組織で対応することで、活動の役割分担や悩みの共有、意見の交換が可能となり、活動をよりよくする工夫につながっていました。また、人が代わっても活動が途切れない運営になり、持続可能な体制づくりとなっていました。

野澤先生、石塚様・長嶋様からのすばらしい発表から学んだことを生かし、それぞれの地域の実態に合わせ、学校と地域が連携をさらに進め、今後の活動の充実につなげていただければと思います。



【受講者の感想から】

- ・地域全体での取組がよい伝統になるような工夫が大切であると感じました。
- ・「地域が学校を巻き込む」という言葉が新鮮でした。
- ・連絡先一覧の活用や先生方の役割分担は、各学校で取り入れるとスムーズな運営につながると感じました。
- ・地域コーディネーターも世代をつなぐ役割があるのではないかと考えることができました。
- ・地域と学校をつなげるためにどうしたらよいか頭を悩ませていましたが、できる人ができることを、できる範囲で無理なく続けていくことで、持続的な活動につながると感じました。
- ・中学校区でコーディネーターがワンチームを組むのも良い方法だと思いました。

研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp

